（別紙4）　　平成　28　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2190100160		
法人名	有限会社マイハウス		
事業所名	グループホーム　マイハウスあつみ		
所在地	岐阜県岐阜市朝霧町34番地		
自己評価作成日	平成28年　6月21日	評価結果市町村受理日	平成28年12月　1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2190100160-00&PrefCd=21&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　中部社会福祉第三者評価センター
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566－1
訪問調査日	平成28年　7月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ADL低下防止の為の工夫をしています。午前・午後のラジオ体操は立って行い、足上げ運動や肩回しなどのストレッチを念入りに行い、室内歩行を365歩のマーチを歌いながら行っています。
2階へ上がる階段を昇って行き、2階の利用者さんや職員と交流したり、犬と触れ合ってから降りて行きます。テラスを歩行器で歩いたり、徒歩で散歩に出掛けます。
薬を飲む時も、利用者さんのところへ薬を持って行くのではなく、台所まで来て飲んでいただくとか洗濯物を干していただいたり、食器洗いをしていただくなどホーム内を移動する機会をもつように心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

利用者、職員の入れ替わりは少なく、開設当初から10年以上共にホームに暮らしている利用者、職員もいる。車椅子の利用者のいないこと、日中紙パンツ使用の利用者のいないこと、利用者全員が職員の介助なく自立して食事をしている姿等々、利用者の自立度の高さを確認した。
職員は利用者の自立した生活の継続、向上に努め、日中は全利用者と職員がリビングでの会話や食事を楽しみ、日課の散歩、家事、階段の昇り降りの筋肉トレーニング等、利用者の体力低下を防いで理念に唱える「楽しくて明るい生活」の実践に繋げている。
毎月の職員会議では、利用者担当職員の報告を基に利用者個別に支援の方法を話し合い、3時間に及ぶことも常である。利用者への思いを熱くする行動力、結束力のある優しいホームである。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「出来る喜び、楽しくて明るい健康的な生活、急がずゆっくり」 を理念としており、職員は理念にそって実践している	ホーム内や会議の資料に理念を表示し、内外に告知している。毎月開催の職員会議では常に理念を意識した話し合いを行い、着実に実践に反映している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	子供会のお祭りお神輿が毎年訪れてくださっている 自治会の方が敬老の日のお祝いを届けてくださる	地域の中学校の生徒を受入れ、福祉体験の場を提供している。利用者は生徒の企画したレクリエーションを楽しんでいる。公民館を会場にして中学生対象の認知症に関する講座を開き、相互に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学校生徒さんの職場体験を受け入れており、 実際に触れ合い認知症についてわかりやすくお話をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長・民生委員・市職員の方の参加にてホームでの生活や外部評価の結果を報告している	年6回開催の会議は、地域、行政の参加を得て外部評価の結果公表、災害訓練、行事実施の振り返りを行い、参加者の意見を実践に反映するよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者の方に窓口や電話等で連絡をとり様々な内容に対応していただいている	行政と連携し、生活保護の利用者の受入れにも努めている。必要に応じて行政を訪問し、報告、相談を行い、協力する関係を築いている。また、行政主催の研修の案内を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	徘徊や、自分で動くと危険な利用者に対しては特にきめ細かな声かけと見守りを行っている	玄関、リビングの窓を開放し、施錠はしていない。入居時に帰宅願望のある利用者は利用者の思いの背景を推し量り、「家に帰りたい」から「ホームの方が良い」と利用者自ら思えるよう支援し、拘束しない介護に取り組んでいる。	拘束をしない支援をテーマとした勉強会等、職員全体の意識を向上させる機会は設けていない。言葉かけを含め、更に適切な支援となるよう望みたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で話し合いの機会をもち、職員一人一人の意識を高めるよう努めている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加している 必要な方の支援は経営者が対応している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に事業所の考え方や対応可能な範囲・転倒骨折のリスク等の説明を行い、理解していただけるよう図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言動や家族からの意見に耳を傾けミーティング等で話あっている	家族アンケートでは、全員からサービスに満足との結果を得た。多くの家族が頻回にホームを訪問し、職員と遠慮なく話すことのできる関係にある。質問に対しても職員は丁寧に説明し、信頼関係を築いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者やケアマネを交えてのミーティングで意見を聞いたり話し合いを行っている	ベテランの職員が大半を占め、利用者本位のチームケア、個別ケアを目指している。毎月開催の職員会議には法人代表も参加し、十分に時間を取って利用者個々の支援に積極的に意見を交わしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の保持する資格や実績に応じて給与水準・職能手当等条件の整備がなされており、職員も向上心を持って働いている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者の指導の下、働きながらトレーニングは行っているが、法人外の研修へは参加できていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者はグループホーム協議会に加入しており、学習会や交流の機会を設けている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に自宅や病院等を訪問し、本人やご家族にあってアセスメントを行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームを見学して頂いたり、現在の状況や要望等を聞くように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所では支援できない事柄は、きずなの会や後見人等の利用に繋げるなど対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分のことや手伝い等、出来ることはやって頂き活躍の場面を作っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とのコミュニケーションを大切にし、本人の希望に添えるよう努めている		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会・電話・メール等で出来るだけ継続の支援をしている	正月には全利用者の振袖を用意し、笑顔の撮影を恒例にしている。編み物を趣味とする利用者は、リビングで編み物を楽しむことを日課としている。婦人雑誌を読む利用者には、家族から郵送で毎月雑誌が届く。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わり方に配慮しながら良い関係が維持できるよう見守っている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も管理者が電話で相談事に対応している		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いをよく聴き、意思疎通が困難な方には表情や行動などから思いを汲み取り対応している	自立した暮らしの継続、向上に努め、利用者の思いや意向の把握に努めている。意思表示の難しい利用者は過去の生活歴をひも解き、仕草を読み取って思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接でのアセスメントや本人・ご家族・関係者からの情報を基に状況の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自分でできる事を無理強いせずマイペースで行って頂いたり、得意な事を楽しんでやれるよう支援している		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者担当者がアセスメントを行い、ミーティング時に代表者・ケアマネ・職員全員で話合っている	プランは3か月を目処に見直している。計画作成担当者は利用者、家族の思いや意向に加え、職員の把握した利用者情報を反映させ、「その人らしい」個別プランとなるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録・業務日誌にて、身体状況や生活の様子を職員全員で確認している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主治医の往診や訪問看護・マッサージ・他医療機関の受診等、様々なサービスを取り入れている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議への参加への参加や消防訓練の協力をお願いしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間ごとの定期往診に加えて緊急時の往診・24時間電話での対応・総合病院との連携等適切な医療が受けられるようになっている	職員は利用者の状態を把握し、医師に報告して服薬の内容や治療の見直しに協力している。協力医は24時間の体制を敷き、訪問看護師、職員と連携して利用者の健康管理に親身に向き合っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に1度の訪問看護師の訪問があり、相談にのっていただいている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	詳細な情報交換に基ずく対応に努めている 代表者が医療関係者との良好な関係作りを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方について契約時に家族に充分な説明をしている	入居時に、家族にホームの看取りの指針を説明している。職員は日々の支援を通じて利用者の出来ることの継続や筋力トレーニングを行い、「寝たきりにしない」を合言葉に支援している。	看取りの実績はないが、職員が自然死に立ち会うケースはある。心構えとして職員の勉強会の機会を設けるよう一考願いたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、徹底するよう努めている 初期対応の実践も行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定の避難訓練も行っており、地域の方々にも災害時の協力をお願いしている また、地域の方が一時避難場所としてホームを利用できるようにしていけるよう話し合っている	年2回の内1回は消防署立会の下、地域の自治会長の参加を得て、消火、通報、避難訓練を実施している。食料の備蓄を行い、通報装置、スプリンクラーを設置している。.	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の人格を大切にし、その方に合った対応をしている	利用者の呼称は苗字を基本に、利用者の希望する呼び名に「さん」を付けている。利用者の誇りを損なわないよう無用な支援は避け、声掛けは丁寧かつ気さくに行い、家族のように心開く対応に努めている。	職員の排泄誘導に、利用者の誇りを損ないかねない直接的な表現があった。心開いた良好な関係にあっても、利用者の誇りを損なわないような心掛けを望みたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の訴えを聴き、また表情や行動からもその想いを汲み取れるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調などを配慮しながら自分でできる事を本人のペースに合わせて行っていただいている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた服を一緒に買いにでかけている 美容院に出掛けて行き、毛染めをしたり好みの髪型にしてもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みの料理や手作りのおやつを提供している 野菜の下ごしらえ・配膳・食器拭き等、一緒に行っている	職員の作る温かい料理は、質、品数、量とも充実しており、利用者、家族から高評価を得ている。料理には利用者のリクエストを反映させ、調理、お盆拭き等、利用者の力量に合わせて活躍の機会としている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量を毎食記録し、月一回の体重測定にて増減をチェックし、時にはエンシュア等で補いながら栄養を確保している 丸呑みする方は極きざみにして提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけ・介助をしている 夜間は義歯の洗浄と保管を行っている 月2回歯科の訪問診療をお願いしている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の残存機能を生かし、状況に応じた声かけや見守り・介助を行っている	排泄記録を取り、変化を捉えて支援方法や服薬の見直しに活用している。支援方法は職員会議に諮り、利用者の自立排泄の継続を全職員の取り組みとしている。支援の成果として、現在紙オムツ使用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録を作成し、運動や水分摂取・腹部マッサージ等行い予防に努めている 便秘症の方は便通剤の調整を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は決まっているが、体調や気分に配慮し楽しんで入浴できるよう支援している	2日置きの入浴を基本に、利用者の清潔保持に努めている。職員は利用者を理解して明るく丁寧な対応に努め、入浴を拒む利用者もなく安心して入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の生活リズムを大切にすると共に就寝前に飲み物を提供したり、居室の温度や寝具にも気を配っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リストを作成し全職員に徹底し、きめ細かく症状の変化をチェックしている 主治医からも薬の副作用等聞いて知識を得ている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの力に応じた役割分担をして頂いたり、好きな事ができるような場面作りをしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月一回のバス外出を行っている 普段は近所に散歩に出掛けたり、近所のスーパーへ自分好みの服などを買いに行っている 希望により家族との外出もして頂いている	利用者の喜びとなるよう外出に力を注いでおり、散歩を日課として気分転換の機会としている。福祉バスを利用したテーマパーク、名所の日帰り旅行を月1回のペースで行い、利用者に活力を与えている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを自分で持っておられる方もいるが、殆どの方が自分で管理できない為ホームで預かり金として管理している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人・知人からの電話にでて頂いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごせるよう室温や照明を調節したり、個々の状態に応じてリビングやダイニングの座る場所に配慮している また、利用者の作品や季節の飾り物を展示している	掃除の行き届いたリビングは、食事のテーブルエリアと利用者、職員全員の座れるソファーエリアとに分けてある。笑顔で会話を楽しみ、思い思いの場で過ごす居心地の良い空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に好きな場所へ移動して過ごしたり、他の利用者との会話を楽しんで頂いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた家具や衣類・飾り物等を持ち込まれる方もある また居室の掃除や持ち物の整理等本人が出来ない部分を職員が行っている	利用者、家族希望の家具、目覚まし時計、花、趣味の編み物道具、雑誌、人形、家族写真等々、自由に持ち込み居心地の良い居室となるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関アプローチ・建物周囲・廊下・トイレ・居室等、安全に利用できるよう手すりやベンチを設置している		

（別紙4）　　平成　28　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2170102301		
法人名	有限会社マイハウス		
事業所名	グループホーム　マイハウスあさぎり		
所在地	岐阜県岐阜市朝霧町34番地		
自己評価作成日	平成28年　6月21日	評価結果市町村受理日	平成28年12月　1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2190100160-00&PrefCd=21&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　中部社会福祉第三者評価センター
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566－1
訪問調査日	平成28年　7月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ADL低下防止の為に生活リハビリの一環として、散歩、階段昇降を行っているが、リフレッシュも兼ねて全身のリハビリ体操や音楽療法も取り入れて、どの利用者にもまんべんなく訓練できるように努めている。クラフトでは、全員に出来る範囲で一つの作品に参加してもらい、完成したら展示して家族の方にも観ていただいている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「出来る喜び、楽しくて明るい健康的な生活、急がずゆっくり」 を理念としており、職員は理念にそって実践している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	子供会のお祭りお神輿が毎年訪れてくださっている 自治会の方が敬老の日のお祝いを届けてくださる		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学校生徒さんの職場体験を受け入れており、 実際に触れ合い認知症についてわかりやすくお話をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長・民生委員・市職員の方の参加にてホームでの生活や外部評価の結果を報告している		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者の方に窓口や電話等で連絡をとり様々な内容に対応していただいている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	徘徊や、自分で動くと危険な利用者に対しては特にきめ細かな声かけと見守りを行っている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で話し合いの機会をもち、職員一人一人の意識を高めるよう努めている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な方の支援は経営者が対応している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に事業所の考え方や対応可能な範囲・転倒骨折のリスク等の説明を行い、理解していただけるよう図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言動や家族からの意見に耳を傾けミーティング等で話あっている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者やケアマネを交えてのミーティングで意見を聞いたり話し合いを行っている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の保持する資格や実績に応じて給与水準・職能手当等条件の整備がなされており、職員も向上心を持って働いている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人員不足の為、法人内外の研修は行えていないが、働きながらトレーニングに努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者はグループホーム協議会に加入しており、学習会や交流の機会を設けている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に自宅や病院等を訪問し、本人やご家族にあってアセスメントを行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームを見学して頂いたり、現在の状況や要望等を聞くように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所では支援できない事柄は、他のサービス利用に繋げるよう対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分のことや手伝い等、出来ることはやって頂き生活意欲の向上に努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とのコミュニケーションを大切にし、本人の希望に添えるよう努めている		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会・電話・お手紙等で出来るだけ継続の支援をしている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わり方に配慮しながら良い関係が維持できるよう見守っている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後もホームに遊びに来て頂いたり、相談事に対応している		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いをよく聴き、意思疎通が困難な方には表情や行動などから思いを汲み取り対応している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接でのアセスメントや本人・ご家族・関係者からの情報を基に状況の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自分でできる事を無理強いせずマイペースで行って頂いたり、得意な事を楽しんでやれるよう支援している		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者がアセスメントを行い、ミーティング時に代表者・ケアマネ・職員全員で話合っている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録・業務日誌にて、身体状況や生活の様子を職員全員で確認している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主治医の往診や訪問看護・マッサージ・他医療機関の受診等、様々なサービスを取り入れている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議への参加への参加や消防訓練の協力をお願いしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間ごとの定期往診に加えて緊急時の往診・24時間電話での対応・総合病院との連携等適切な医療が受けられるようになっている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎回対応出来ており、必要に応じて専門医に受診している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	詳細な情報交換に基ずく対応に努めている 代表者が医療関係者との良好な関係作りを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方について契約時に家族に充分な説明をしている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、徹底するよう努めている 初期対応の実践も行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定の避難訓練も行っており、地域の方々にも災害時の協力をお願いしている また、地域の方が一時避難場所としてホームを利用できるようにしていけるよう話し合っている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の人格を大切にし、その方に合った対応をしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の訴えを聴き、また表情や行動からもその想いを汲み取れるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調などを配慮しながら自分でできる事を本人のペースに合わせて行っていただいている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた服装や、アクセサリー等本人の好みのものを選んで頂いている 美容院に出掛けて行き、自分の好みの髪型にしてもらってる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みの料理や手作りのおやつを提供している 野菜の下ごしらえ・配膳・食器拭き等、一緒に行っている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量を毎食記録し、月一回の体重測定にて増減をチェックし、時にはエンシュア等で補いながら栄養を確保している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけ・介助をしている 夜間は義歯の洗浄と保管を行っている 月2回歯科の訪問診療をお願いしている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の残存機能を生かし、状況に応じた声かけや見守り・介助を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録を作成し、運動や水分摂取・腹部マッサージ等行い予防に努めている 便秘症の方は便通剤の調整を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や気分に配慮し楽しんで入浴できるよう支援している 必要に応じて足浴やアロマオイルでのマッサージを行っている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の生活リズムを大切にすると共に就寝前の雰囲気作り、居室の温度や寝具にも気を配っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リストを作成し全職員に徹底し、きめ細かく症状の変化をチェックしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの力に応じた役割分担をして頂いたり、好きな事ができるような場面作りをしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月一回のバス外出を行っている 普段は近所に散歩に出掛けたり、近所のスーパーへ自分好みの服などを買いに行っている 希望により家族との外出もして頂いている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこずかいを自分で持っておられる方もいるが、殆どの方が自分で管理できない為ホームで預かり金として管理している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人・知人からの電話にでて頂いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごせるよう室温や照明を調節したり、個々の状態に応じてリビングやダイニングの座る場所に配慮している また、利用者の作品や季節の飾り物を展示している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に好きな場所へ移動して過ごしたり、他の利用者との会話を楽しんで頂いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた家具や衣類・飾り物等を持ち込まれる方もある また居室の掃除や持ち物の整理等本人が出来ない部分を職員が行っている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関アプローチ・建物周囲・廊下・トイレ・居室等、安全に利用できるよう手すりやベンチを設置している		